

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|---------------|
| 事業所番号 | 4270401500 | | |
| 法人名 | 有限会社 春陽 | | |
| 事業所名 | 有限会社 春陽 グループホーム 福田 | | |
| 所在地 | 長崎県諫早市福田町3346-5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年 12月 27日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 23年 2月 21日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構 |
| 所在地 | 〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階 |
| 訪問調査日 | 平成 23年 1月 24 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

"ゆったりと その人らしさを 大切に"の理念の基、入居者一人一人に対し、個別援助をするとともに、その人らしく、安心して生活していただける環境作りに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは代表が以前この場所で開設されていた事業所を苦労を重ねて再スタートされ、利用者本位の支援を目指して職員一丸となり介護の質の向上を図ってきた。職員は利用者が求めるものを敏感に察知して支援するのももちろん、このホームで何をしたいのか自発的に考え行動することが求められている。相撲のテレビ観戦を更に楽しめるよう考案した相撲クイズに興じ、代表が何度も下見をして一番美しい紅葉を楽しみ、今年はできなかったが温泉一泊旅行に出かけ、リハビリで始めた折鶴を平和公園で捧げる行事とするなど生活に張りを持っていただけるよう支援している。利用者と職員は家族的な関係を築かれ、食事の際には楽しい会話の輪が広がり笑い声が絶えない。また、自治会加入を機に地域との交流もますます広がり、職員の入れ替わりがあったが質の高い支援を志向し続けるホームである。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印 | | 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印 | |
|-----|--|----------------------------|--|-----|---|----------------------------|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の | | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と | |
| | | 2. 利用者の2/3くらい | | | | 2. 家族の2/3くらい | |
| | | 3. 利用者の1/3くらい | | | | 3. 家族の1/3くらい | |
| | | 4. ほとんど掴んでいない | | | | 4. ほとんどできていない | |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 1. 毎日ある | | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | 1. ほぼ毎日のように | |
| | | 2. 数日に1回程度ある | | | | 2. 数日に1回程度 | |
| | | 3. たまにある | | | | 3. たまに | |
| | | 4. ほとんどない | | | | 4. ほとんどない | |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 1. ほぼ全ての利用者が | | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | 1. 大いに増えている | |
| | | 2. 利用者の2/3くらい | | | | 2. 少しずつ増えている | |
| | | 3. 利用者の1/3くらい | | | | 3. あまり増えていない | |
| | | 4. ほとんどいない | | | | 4. 全くいない | |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が | | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | 1. ほぼ全ての職員が | |
| | | 2. 利用者の2/3くらい | | | | 2. 職員の2/3くらい | |
| | | 3. 利用者の1/3くらい | | | | 3. 職員の1/3くらい | |
| | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない | |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 1. ほぼ全ての利用者が | | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が | |
| | | 2. 利用者の2/3くらい | | | | 2. 利用者の2/3くらい | |
| | | 3. 利用者の1/3くらい | | | | 3. 利用者の1/3くらい | |
| | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどいない | |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が | | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が | |
| | | 2. 利用者の2/3くらい | | | | 2. 家族等の2/3くらい | |
| | | 3. 利用者の1/3くらい | | | | 3. 家族等の1/3くらい | |
| | | 4. ほとんどいない | | | | 4. ほとんどできていない | |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が | | | | | |
| | | 2. 利用者の2/3くらい | | | | | |
| | | 3. 利用者の1/3くらい | | | | | |
| | | 4. ほとんどいない | | | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-) です。〕

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|-----------|----------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| .理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員全員、月1回の全体会議や日々の現場において、常に意見を交換する場を持っており、入居者各個人のペースを崩さない声かけや誘導を目指し、その人らしさを尊重したケアの徹底に向け、職員全員が理念の実践に取り組んでいる。 | 毎朝理念を唱和し、利用者を自身の家族として「せかさないで、したいようにしていただく」ための支援をおこなっている。また「きれいな言葉づかいをしましょう」などの月間目標もつくり職員に浸透している。 | | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事やイベントは夜間や早朝が多く、入居者の参加が難しいが、ホームの行事等行う際には、地域の方への参加を呼びかけ、参加してもらっている。日々の挨拶や散歩時の地域の方への声かけも定着し、徐々に交流が増加している。 | 平成22年1月に自治会に加入し総会や除草作業に参加して地域の方に広くホームを知っていただき、交流を深めることができた。利用者の状態を第一に考えながら地域の行事の参加も考えている。 | | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々との話の中で悩みや相談等あった場合、事業所としてできる事は何かを考え、前向きに行動に移せるように努力している。 | | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議ではホームの事業計画や日々の活動報告を行い、出席者から出された意見に対しては、次の会議で検討したことの結果報告を行っている。実際の現場の様子を見ていただく事が出来るようグループホーム内で開催している。 | 平成22年4月より2ヶ月に1回開催している。地域住民代表や市の担当者から「災害時の車イス利用者の避難」や「入浴支援の体制」などについて業務の振り返りや支援の充実に繋がる質問やご意見、要望をいただいた。 | | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に市の担当者が出席し意見をいただいており、市町村の窓口へホーム紙の配布も行っている。 | 市の担当者には運営推進会議だけでなく敬老会や餅つきの際に来ていただくこともあり、質問や相談をしやすい良好な関係を築いている。運営推進会議では有益な情報や御意見をいただいている。 | | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修会に参加し、ホーム内で身体拘束ゼロ推進委員会を設置している。月に一回会議を行い、全職員で日常のケアの中で常に身体拘束にならないか考え実践している。 | 身体拘束ゼロ推進委員会で月間目標を作り身体拘束のない支援を実施している。「待つ」という言葉を使うときは「5分経ったら」など明確に示すようにし、利用者がどこにいても確認できるよう時計を複数設置している。 | | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者と計画作成担当で身体拘束についての研修に参加し、その研修内容を全職員に報告し、その内容を周知した上で、毎月一回身体拘束ゼロ推進委員会を開催し、あらゆる虐待・拘束について検討しながら、防止に努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修等にはすすんで参加し、必要な時には活用できるようにしている。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約を結ぶ際に、しっかり説明し理解を得ていても、家族の意向は変化する場合がある為、十分に説明を行っている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 現状は意見、要望はないが、意見箱を設置し、記入していただく様声かけしている。 意見、要望があれば、真摯に受け止め、迅速な対応に心がけている。 | 過去にご家族の気づきによって住環境が改善されたことがあり、利用開始時にその事例を話すことでホームが「意見を求めていること」「ありがたく受け止めていること」を示している。個々の要望にも迅速に対応している。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、意見を聞きだすようにしている。また、月一回全体会議を開催し職員の要望や考えを聞く機会を設けている。 | ホームの代表や管理者が他職員と同じく業務にあたっていることからお互いに何ごと忌憚なく話し、反映してきた。代表は新人職員にも意欲的な意見とサービスへの反映を求めているがまだ活発ではない。 | 質の高い支援を意識して行っている職員の中で新人職員も自信をもてるようレベルアップを図ると共に、意見の出しやすい環境作りが望まれる。 |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者も職員と同様のシフトに入り、職員全体の勤務状況、職場環境について毎月の全体会議や個別にて話し合いを行い、各自のやりがいや向上心につなげられるように努力している。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会等への参加を呼びかけ、多くの職員が参加できる体制を整えている。又、内部での勉強会を開催し、情報の共有に努め、全体的な質の向上に努めている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡協議会へ必ず参加し他事業所との交流を持っており、しばしば、他事業所の行事にも参加している。 | | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 訪問調査で本人の状況を把握し、本人との会話の中から不安な事等聞き出す努力を行っている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の方が求めている事を理解し、入居者の状況や家族の意向等相談時や訪問調査時等に聞き出している。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談を受けた時は、当ホームだけの利用だけでなく、他事業所や他のサービスも視野に入れた対応をしている。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の方々に昔の話や生活の知恵などを教えてもらったり、職員が落ち込んでいると慰めてもらう事もある。職員全員が第二の家族という考えを持ち、和やかな生活が出来る様にしている。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 今までの各入居者の生活歴や家族関係を理解し、行事に誘ったり一緒に過ごしてもらい、良い関係が継続できるように心掛けている。又、小さな出来事も含め、家族には随時連絡を行い、お互いの情報を共有し、一緒に支えあっていける様に努力している。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 各入居者の生活歴を把握し面会や外出の機会を絶やさないようにしている。 | 病院の通院支援の際に買い物や以前住んでいた場所に立ち寄るなど馴染みの場所への個別支援をしている。遠方の家族には訪問時には居室に泊っていただけることを話し宿泊されることもある。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人で部屋で過ごす事が好きな方もいらっしゃるが、なるべくみんなで過ごす事ができるように声掛けしている。また時々、スタッフと共に他の方の部屋を訪問し、入居者同士が関わり合えるように努力している。また、リビングでの座席の配置や入居者同士の会話時に必要な時には職員が入ったり楽しく過ごす事ができるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 定期的に連絡をとり、相談にのっていた。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者一人一人の望んでいる暮らし、思い等を日頃の会話や表情の中から汲み取り職員全員で把握している。 | 時間を共に過ごし良い関係を築いた利用者であっても未だ知らないことがあることを意識し、利用者に関わる時間を多く取るようにしている。表現されない思いも家族からの情報や生活歴、表情や行動から把握ができています。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 訪問調査時に家族への聞き取りや入居者との会話の中から情報を集め聞き取るようにしている。記録に残し把握している。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の一日の過ごし方を把握し小さな事まで見逃さないように努力している。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者と話し合い、目標を設定している。家族の方に説明・同意を行う際に今後の希望や思いを聞きだす様に努力している。 | 機会があるごとに利用者や家族に意見を聞くよう心がけ、担当職員はケアプランを意識した記録からモニタリングをしている。それを基にしたプラン案から計画作成担当者がプランを完成し家族に確認をいただいている。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入居者の状態や変化は小さな事でも日々の記録に記載し、職員間で共有できるようにしている。1ヶ月ごとにまとめを行い、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 外出時の送迎やホーム面会時の宿泊等その時々生まれるニーズに出来る限り対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 警察署や消防署より理解と協力を得ており、ホーム近隣には、民生委員や町内会副会長宅があり、常に協力が得られている。 | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の方が希望するかかりつけ医に診てもらっている。かかりつけ医と連絡や相談をしながら、心身の変化や異常発生時に適切な医療が受けられるようにしている。 | かかりつけ医への受診支援の際には個人の記録から普段の状態を説明し、適切な診療が受けられるよう支援している。家族が一緒でない時はかならず連絡をして説明している。 | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を配置している為、常に連絡や相談をしながら支援している。 | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 医療機関と情報交換をし、早期退院に向けた支援をしている。 | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期における方針について、入居者本人・御家族と話し合い、共有すると共に、近隣の方々へ急変時、緊急時の対応について説明し、その際の協力について了承いただいている。 | 職員の支援の質の向上によりターミナルケアも可能として準備をしてきた。職員の入れ替わりがあり現在は医療行為を伴う支援は難しいことを家族に説明し理解を得ている。終末期のケアについての研修を続けている。 | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ホーム内の研修にて繰り返し勉強している。職員全員が救命講習を受講している。 | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行い、利用者・職員共に訓練している。また、その際には消防署・消防設備会社・地域の方にも参加して頂いている。 | 消防署立ち会いのもと昼夜想定で2回の消防訓練をおこなった。実際に煙を焚いて訓練をしたり、消防団にホーム内を見ていただくなど災害対策に力を入れている。H22年2月にスプリンクラーが設置された。 | |

| 自己 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|------------------------|------|---|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような対応を行っている。 | 利用者の個性、生活歴に合わせた言葉かけを心がけている。また居室に入るときに必ずノックをする、掃除の際に物品の場所を変えない、トイレ介助の際にドアを閉めるなど生活の中で不快を感じられないよう配慮している。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者が分かりやすい言葉を選び、職員側で決めた事を押し付けるような事はせずに、本人が決める場面をつくっている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、入居者の体調や状況にあわせて各個人のペースで過ごされている。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分が着たい服を選んでもらったり、好みの髪型に出来る様に入居者希望の美容院へお連れしたりしている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事を楽しみにされている入居者が多数いらっしゃる為、皆で準備や片付けが出来る様にしている。食事の際は入居者と職員が同じ物を同じテーブルで食べ、楽しい雰囲気づくりに心掛けている。 | ジャガイモやふきの皮むきやお盆拭きなど、利用者にできることをしていただいている。普段の食事はもちろんのこと忘年会の鍋料理、誕生日のケーキ、美しく盛りつけられたおせちなど職員手作りで食の喜びを提供している。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者一人一人の食事量・水分量の把握をし、栄養士を中心に栄養管理を行っている。入居者によっては刻みにし食べやすいように工夫している。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 全入居者に対して、食後の口腔ケアを働きかけ、実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 全入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。心身の状況や時間帯に応じて下着やパット等の使い分けも行っている。 | 利用者がよりよい状態で暮らしていただけるよう一人ひとりに合わせて自立に向けた支援がこなわれており、紙パンツから布パンツ使用になられた方も多い。排泄の失敗により気持ちがふさぐことのないよう配慮している。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事には野菜や果物を多く取り入れ、体を少しでも動かすように体操をしたりと、入居者一人一人にあった便秘の予防に取り組んでいるが、それでも排便がスムーズにいかない場合には、医療機関と連絡をとり下剤等にてコントロールしている。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入居者の要望を取り入れながら入浴を楽しんでもらっている。 就寝前の入浴も取り入れている。(夏の温かい期間) | 週3回の入浴としており、入る順番など要望を取り入れ、菖蒲湯やゆず湯で季節を感じてもらいたいなど気持ちよく入浴していただいている。昔話をしたり唄を歌ったりすることもあり楽しい時間となっている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼寝の時間を設けているが、昼夜逆転にならないように配慮し、日中の活動量を確保するようにしている。 自然に入眠していただけるように、夜に向けての雰囲気作りをしている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書は個人ファイルに綴じ、いつでも見れるようにしている。薬が変更になった時には、通院記録に記載し、情報を伝達するようにしている。 又、薬についての勉強会を開催し職員全員で把握している。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者一人一人に役割・楽しみ事があり、それを尊重し、日々の生活を楽しく送れるように支援している。各入居者の経験や知恵・得意分野でそれぞれの力が発揮できるように配慮している。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 入居者一人一人の状態や希望に沿って出来るだけ戸外にお連れするように心がけている。個人の意見を聞き出し、行きたい所にいける様に支援し、四季折々での外出も取り入れている。 | 利用者一人ひとりの要望に合わせて買い物、近隣の散歩、海や山へのドライブなどを支援し、ラーメンやケーキなどお好みのものを食べていただく機会を作り、また菖蒲見物や紅葉狩りなど季節を感じていただける外出をおこなっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 高額な金額はトラブル防止の為、所持していただかないようにしている。お小遣い程度は自由に所持されている。 | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者の希望に応じて、電話や手紙の対応を行っている。 | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地よく過ごせるように写真や季節の装飾品を飾り、殺風景にならないようにしている。また、不快な音や光がないように調節している。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節感を味わったり、日常生活の音を取り入れる工夫もしている。 | リビングダイニングは穏やかな明るさで家庭的な雰囲気があり、利用者はソファでくつろいだりテレビで相撲観戦をされたり楽しみの場とされている。食事の際は音楽をかけてリラックスできるようにしている。 | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングのソファや廊下の椅子、玄関先のベンチ等自由に過ごせるような場所を用意している。 | | |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者や家族と相談し、使い慣れた家具や装飾品、家族の写真などを持ち込んでもらい、一人一人の好み、習慣に合った環境作りを行っている。 | 家族が持ち込んだいくつもの鉢植えが置かれている居室もあり、その人らしい暮らしが感じられる。加湿のためにバケツを置くなど快適な環境で過ごせるよう工夫しており、事務室に繋がるインターフォンも各部屋に備え付けられている。 | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室入口やトイレ等表示し、状況に応じて環境整備に努めている。又、必要な場所には随時手摺り等を設置し、安全に暮らせるよう努力している。 | | |